

取組項目	令和7年度の取組み計画（案）	令和7年度の実施内容	今後の課題	令和8年度の取組み計画（案）
現状分析・課題抽出・ 施策立案・ 評価・改善	<u>在宅医療・介護連携推進会議開催（2回/年）</u> <u>ワーキンググループ会議</u> ☐ ACPの取り組み推進継続 ・市民への普及啓発 ・ケアマネ連絡会における研修会の継続 ☐ 緊急時の入院・入所先確保	在宅医療・介護連携推進会議 8/1、3/13 ☐ ICT検討会議（R7.11月開始） ☐ ACPの取り組み推進継続 ・市民への普及啓発 ・ケアマネ連絡会における研修会の継続 ☐ 緊急時の入院・入所に関するアンケート調査	ACP、つながるカードの啓発	在宅医療・介護連携推進会議開催（2回/年） ICT検討会議 ☐ ACPの取り組み推進継続 ・市民への普及啓発 ・ケアマネ連絡会における研修会の継続
(1) 日常の療養支援	<u>多職種連携研修会の継続</u> 「摂食嚥下」をテーマにした内容 恵那歯科医師会委託事業	多職種連携研修会の企画・開催 谷口 裕重氏 [朝日大学歯学部教授] 令和8年1月22日(木) 14:30～ 於:恵那文化センター ・歯科医師会との事前検討会議 ・恵那歯科医師会、中津川歯科医師会、恵那市及び中津川市介護サービス事業所への周知 研修会参加者数 計75名 （歯科医師13名、医療・介護職等62名） 参加者アンケート（一部抜粋） 1. 口腔機能の低下と身体機能の低下は無関係でないとわかり、モニタリング訪問時に口腔機能について確認できる範囲で確認し歯科医へ情報提供していきたい。 2. 嚥下機能が低下しないように、早い段階で歯科医に連携する事が大切だと学んだ。 3. 嚥下障害がある場合、実際に口の中の様子を見て説明を受けよく理解できた。 4. グループワークで歯科医と交流できよかった。		<u>多職種連携研修会の継続</u>
	R8年度 中津川・恵那医療介護専門職連携会における啓発事業 （仮）薬局等、各医療介護サービス事業所等の活動報告会	中津川・恵那医療介護専門職連携会会議における検討 薬剤師との連携方法に関する検討の継続		
	訪問介護提供体制支援 ☐ 岐阜県訪問介護強化事業研修会開催 対象：訪問介護事業所、居宅介護支援事業所 ☐ ゴミ出し支援体制について関係機関と検討	第1回「訪問介護～正しい知識を身につけよう」 第2回「これですっきり！訪問介護の疑問あれこれ」 令和8年1月21日（水）、2月18日（水）開催 <u>生活支援体制整備事業へ移行し検討 R8中導入</u>		

《在宅医療・介護連携推進事業 各取組項目について》

取組項目	令和7年度の実施内容	今後の課題	令和8年度の実施内容
(1) 日常の療養支援	令和7年度の実施計画（案） <u>介護人材育成の取組み</u> （高齢福祉課） □ 修学資金・助成金制度の啓発 □ 啓発リーフレットの作成及び配布	令和7年度の実施内容 <u>継続実施</u> □ 市内中学校へのリーフレット配布（中学2年生） □ 成人式におけるリーフレット配布 □ 就学資金・助成金制度実績（R8.2月時点） ・介護人材育成修学資金 0人 ・介護福祉士資格取得支援助成金 15人 ・介護職員初任者研修資格取得支援助成 3人	今後の課題
	令和7年度の実施計画（案） <u>市ホームページへの情報掲載</u> □ 医療機関等の情報更新（医療・歯科・薬局） □ 介護サービス事業所の情報更新	令和7年度の実施内容 <u>継続実施</u>	今後の課題
(2) 入退院支援	令和7年度の実施計画（案） <u>医療・介護関係者との情報共有への支援</u> □ 情報提供書等の活用の充実 ・修正箇所の検討 ・医療機関とケアマネとの調整	令和7年度の実施内容 <u>継続実施</u>	今後の課題
(3) 急変時の対応	令和7年度の実施計画（案） <u>緊急時等の入院・入所及び在宅生活継続の方法</u> □ アンケート調査の実施 □ 身寄りのない方への支援	令和7年度の実施内容 □ アンケート調査（ケアマネ、ヘルパー） □ 身寄りのない高齢者支援のためのガイドライン作成	今後の課題
(4) 看取り	令和7年度の実施計画（案） <u>情報共有システムについて検討</u> □ 情報共有システム導入の具体化 ・情報共有ワーキングチームでの検討 ・導入に関する検討の継続	令和7年度の実施内容 情報共有システム導入に関する検討会議	今後の課題 情報共有システム導入に関する医師会、歯科医師会、薬剤師会、医療介護サービス事業所、中津川市等との連携

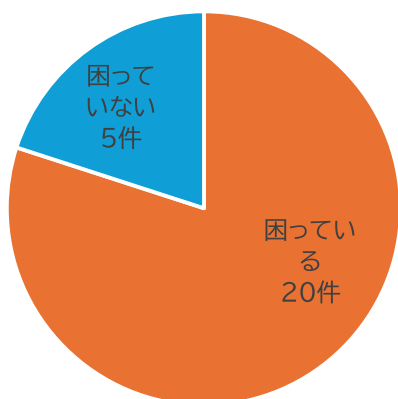
《在宅医療・介護連携推進事業 各取組項目について》

取組項目	令和7年度の実施内容	今後の課題	令和8年度の実施内容
(2)入退院支援 (3)急変時の対応 (4)看取り	令和7年度の実施内容 ACP 普及啓発 一般市民 ☐ 出前講座等における啓発活動 ☐ 広報等を活用しての啓発活動 ☐ 大湫病院認知症疾患医療センターとの連携による啓発事業 ☐ 認知症初期集中支援事業 啓発事業 ☐ 市内医療機関等におけるつながるカード周知ポスター掲示 ACP 普及啓発 専門職 ☐ ケアマネ連絡会における研修会 ☐ 多職種連携研修会での周知活動	今後の課題 ACP、つながるカードの啓発	
	令和7年度の実施内容 一般市民対象 ☐ つながるカードに関する動画を用いた周知（アミックスコム、市 YouTube 等） ☐ 出前講座等における啓発活動 つながるカード周知 ・ハートウィング入居者 令和7年7月8日（火） 講師 国保上矢作病院 栗田一夫ソーシャルワーカー ・社協福祉の日イベント 令和7年11月23日（日） ・大湫病院認知症者就労支援事業令和8年2月23日（月） ・恵那市中央図書館協賛事業 令和8年3月8日（日） ☐ 大湫病院認知症疾患医療センター連携事業での啓発活動 映画上映会「ばあばは、だいじょうぶ」 令和7年8月7日（木）於：恵那文化センター ☐ 恵那市認知症初期集中支援事業啓発講演会での啓発活動 「認知症になっても笑顔で暮らせる地域で」 令和8年2月28日（土）於：市消防防災センター ☐ 市内医療機関等におけるつながるカードポスター掲示 専門職対象 ☐ ケアマネジャー研修会 令和7年6月18日（水） 講師 国保上矢作病院 栗田一夫ソーシャルワーカー ☐ 多職種連携研修会でのつながるカード周知		
	令和7年度の実施内容 中津川・恵那医療介護専門職連携会との連携		

ケアマネジャーを対象としたアンケート調査（R7.10月）25件回答

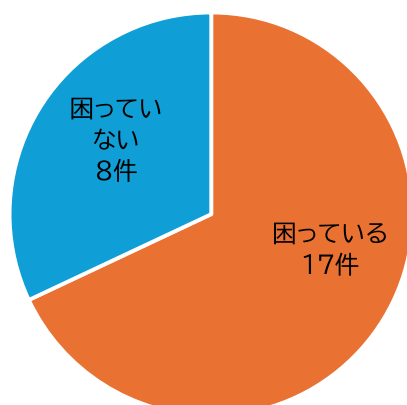
高齢世帯等で支援者側の入院等により、被介護者の緊急のサービス確保について

①緊急のサービス確保が困難で困った事があるか



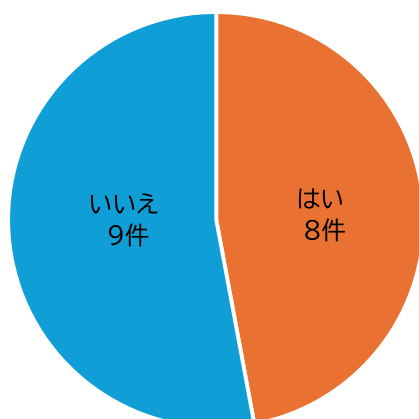
・夜間帯は頼める事業所等が無く、ケアマネジャーが対応する事例が多数ある。

②緊急時ショートステイの空きが無く困った事があるか



・居宅介護支援事業所側に情報が無い。
・そもそもショートステイが空いていない。
・緊急時は対応出来そうな事業所を片っ端から探す事になりかなり大変。

③緊急時、ショートステイの空きはあるが本人に適さない



【本人の状況】

・認知症等の症状により環境適応が難しい。
(7 件)

・血液透析が必要だが対応できないため。

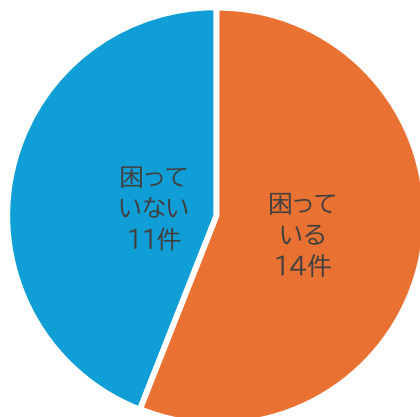
【支援者がいない】

・契約手続きを行える身内がいない。

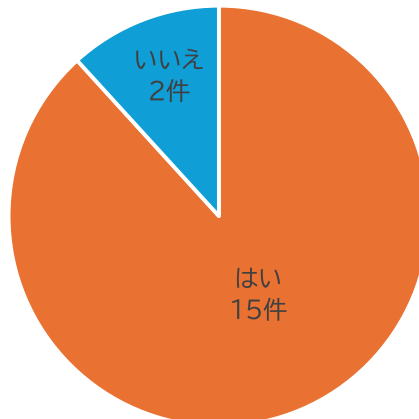
【その他】

・健康診断書作成が間に合わない。

④入院適応外ではあるが(腰椎圧迫骨折等)自宅療養が困難な場合等で対応に困った事がありますか



⑤緊急時、ヘルパーの利用回数を増やしたいが、地域により対応できる訪問介護事業所が無い



【サービス量が足りない】

- ・骨折した等で介護の手間が増加。1人暮らしであると、点で支えるサービスだけでは賄えない。
- ・サービスが入らない時間は家族の見守り、又はリスクあるが一人で過ごす事になる。
- ・痛みが強く日常生活もままならないが、ピンポイントの訪問系サービスだけでは対応が難しく、通所サービスでは出かける、帰宅する等の動作も痛みで困難。
- ・独居で身寄りが無いものの、要支援2であり、ヘルパーを増やす事が難しい。

実際にどのように対応したのか

【入所・入院対応】

- ・すぐに施設入所は難しいので、そこら中の施設をあたる。ショート延長。または、療養のある、上矢作病院にも依頼する。
- ・老健の利用期間を延ばし、ショーステイで繋いで入所を待った。
- ・上矢作病院の地域包括ケア病棟の入院。それにより困った事は無い。
- ・再度、救急車で、別の病院へ行って、医師へ事情を説明し、入院させてほしいと家族がお願いをして入院できた。

【その他】

- ・結局、頼れる身内がいない場合はケアマネが対応した。
- ・遠くの家族の家に一旦行って生活。
- ・最終的には家族に無理を言って、付き添ってもらった。
- ・介護保険の区分変更の申請を早速行なった。元家政婦の友人に有料で時々食べ物の買い物などを頼んだ。

訪問介護事業所対象 アンケート調査(R8.1月)

訪問介護事業所等に依頼を受けたが、遠方、地理的条件で訪問対応できない地域(地区)がある場合の課題

恵南:事業所より30分以上要する地区、上矢作、明智の遠方地域、雪道で危険であると担当できない場合があるが、全地域に対応できる事業所がある。

恵中:飯地、中野方の一部地域で出向けていない現状がある。ただし、数件同日に出向けるように設定できれば訪問が可能である。(4事業所)
飯地、中野方の一部地域以外では出向けない地域は無い

その他課題

- ・僻地等においてのヘルパー不足について、例えば医師会、行政等でサテライト事業所(医師会や行政が主体の事業所)を設け、そこに市内各事業所が派遣される形式をとれると良い。どの地域にも登録ヘルパーが存在するとよい。
- ・訪問介護では、遠方だからといって交通費はとれないため、例えば事業所から片道〇〇km以上は交通費をもらってよい等の条件が明確化できるとよい。
- ・距離・道路事情で、特別加算料金を頂く。
- ・遠方であると、事業所からの距離が往復だけで時間を要してしまい(雪道等の危険性もある)、経営体制的に難しい
- ・時間的に限定的でなく、いつでもいいとなれば可能と思われる。
- ・遠方で朝8時~や夕方・18時以降だと派遣できない可能性が高い。
- ・在宅で、1人の利用者に対し、多くの事業所が関わっている事例が増えている。そのため連携が難しい。ICTを活用したり、対面での連携ができる方法の検討が必要